巻頭言

異質な他者とのつながりは、新たな自己との出会いとなる
～多様性がもたらす自己変革～

古村 伸宏（ワーカーズコープ連合会連理事長/協同総研副理事長）

常態化しつつある酷暑の夏、台風をはじめとする局所集中的な風雨と極端な干ばつ、そして世界中で広がっている森林火災などの災害は、気候と生物多様性の危機が待ったなしであることを突き付ける。コロナ禍がそうであったように、様々なものが分断・遮断され、つながりの喪失がもたらす生存の危機が身近に迫っていると感じさせる。とりわけ、電気をはじめとするエネルギーが遮断されると、あらゆる日常の機能は停止を余儀なくされ、人間の生存力の脆弱性が露わになる。食料の危機も同様である。災害をはじめとする危機は、日常の当り前を再考する必要性を喚起するが、喉元を過ぎると危うい常識や慣習に甘んじ回帰する傾向は払しょくできていないように感じる。

かつて人間は、生命の危機に遭遇するたびにその体験から学びを深め、常識を更新し、その歴史を伝承してきたはずだ。それが文化の重要な要素だとしたら、今の時代は文化継承・文化創造の危機が深く進行しているともいえるのではないだろうか。生存をかけた葛藤から文化は形成されてきたとしたら、今の時代は総じて新たな文化の形成期といえる。その中で協同労働もまた、生存をかけた文化形成の営みとして位置づけられる。

そんな思いをぼんやりと持ちながら、先日茨城県の常陸太田市を訪れた。目的はトライポッド・デザイン株式会社の中川聰さん率いるチームが手掛ける「超小集電」技術の社会実装の研究開発の見学とレクチャー。夕刻にOFF-GRID TEST SITEに到着し、約１時間のお話を聞き、実験棟「空庵KU-AN」を案内していただいた。誌面の関係で詳しく述べることは控えるが[*1]、訪問前に得た情報に衝撃を受け、強い関心を持って臨んだ。そして、実際に見聞きして強い確信と感動に変わった。あらゆる自然と生きものから超微量のエネルギーを集めて、くらしに必要な分だけ使う…。まさに生命活動がエネルギー源であり、それらを交換し合って活かし合うための技術、と勝手に解釈した。また、SDGsや生物多様性が問われる中で、日本の文化的な精神性にあった（最近めっきり薄まりつつある）「八百万の神」という言葉が、体中を去

＊1 中川聰さん・「いばらきのヒト・コト・バ」・いばらき移住定住ポータルサイト・https://iju-ibaraki.jp/feature/things/12635.html（閲覧2023-8-19）

来した。アニミズムは協同労働における「誰でも生きるに値する役割と働きがある」という生命観にも通ずるものがある。人夫々の役割と働きを見つけ合い、活かし合い、果たし合うという、「協同の関係で働き合う『協同労働』」と、超小集電の技術・理念がスーッとつながった。こうした技術を社会実装していく「働き」をワーカーズコープが担うことは、内部にこうした新しい技術を取り入れるというより、この技術を色々な人々に紹介し、その活用を楽しく未来的・本質的に語り合い、具体的な「小さな循環」の実践を商業ベースに偏らず、ネットワーク型のコミュニティづくりとして始めていくことではないかと思う。

ワーカーズコープだけが協同労働を語り実践し広げる段階から、積極的に異質な外の世界とつながり、結び合い、共に生存の環境を小さく無数に育むことこそが、これからの共生・共存の世界を育む「協同労働の力」の未来的志向だと思う。

異質な外の世界とつながることは、境界線を薄めつつ真の多様性を基盤とする、古くて新しい文化創造といえる。その意味で、「私」と「あなた」の間にある強い境界線を緩め、異質な「私たち」といえる職場・組織・コミュニティづくりこそが、協同労働の真骨頂でありエネルギーの源泉である。一人ひとりのエネルギーは微量でも、これを集め活かすことで、誰もが共存の当事者となる。そのためには、微量なそれぞれのエネルギーが発露する場のあり方、そこでの関係のあり方が、共存の環境として探求される。そこで織りなされるエネルギーは、大きさではなく美しさに価値を置くことも、これからの重要な挑戦となる。そのためには、一方向に「つくる」ことに腐心するのではなく、「解く」「壊す」ことから編み直しをはじめる勇気も求められる。

今夏は、株式会社コトノネの里見編集長のご尽力を得て、本年末に刊行を予定している書籍、対談集の編集が佳境を迎えている。対談いただいたのは、広井良典さん（京都大学人と社会の未来研究員教授）、伊藤亜紗さん（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授）、藤原辰史さん（京都大学人文科学研究所准教授）、斎藤幸平さん（東京大学大学院総合文化研究科・教養学部准教授）、小野りりあんさん（気候活動家・モデル）といった、今を時めく異種多彩な面々。協同労働運動との接点は、広井良典さんを除いてここ数年であり、これもまた、異質な外の世界とのつながり・越境のチャレンジだ。自分でも驚くほどに気後れすることなく、それぞれの専門性と協同労働の接点を探る楽しい対談だった。手前みそではあるが、協同労働が持つ普遍性や文化的基盤のようなものを垣間見た場面の連続だった。協同労働を独善的・一神教的に捉えるのではなく、様々な個性や専門性がつながる術と捉えることで、自惚れをこえた利他的文化として、今日の分断的状況をこえて、共生と共存に不可欠なエッセ

ンスとなりうる可能性を見出した感覚である。

一方でこの間、協同労働を観念的に語ることが増えた自覚がある。しかしその言葉を発するときの脳裏には、くぐってきた数々の体験の場面が必ず去来している。しかしそれは、言葉を通してはおそらく伝わり切っていない。だとするとその言葉は、たとえ自信があったとしても、空虚で自意識過剰なものでしかない。受け手の創造力を掻き立てつつも、謙虚に事実から語ることの大切さが、越境する協同労働運動を可能にする必須の所作のように感じる。その意味で刊行される対談集は、リアルな体験や事実を表現しつつ、想像力を掻き立てるものに仕上げていきたいと思う。

労働者協同組合法の施行から間もなく１年を迎える。私たちはもとより、厚生労働省をはじめ各都道府県などが精力的な法の周知・広報に取り組んだ結果、57法人が設立されている（2023年８月23日現在、うち２連合会含む）。私たち連合会も６月24日に創立総会を開き、７月３日に法人登記を済ませ、15正会員が集う公式な労働者協同組合法人の連合会となった。法制定から法施行への２年半の歩みは、新たな労協法人設立とそれらの連合会への参加を得ながら、自身のあり方を解き、編み直す必要性に満ちたものだった。公の制度となって動き出した今、無法者時代の生き抜く術の刷新が必須である。閉ざされた「私たち」の世界から、開かれた「みんな」の世界への船出は、慣れ親しんだ小学校から、中学校への進学の気分とどこか似ている。「公」の制度の下で営むこれからは、サークルや同質の仲間内の独善的な価値観にとどまれば、無自覚のうちに分断線を引いてしまうことになる。また、閉ざされた同質な集まりは内輪の価値観の下で充満する同調圧力が強まる。多様なみんなの共存を前提に、真の多様性と格闘する努力が求められる。耳障りのよい一部分の情報共有ではなく、信頼関係に満ちた組織文化を育む、風通し良く予断を許さない情報共有のあり方も必須である。その意味で必要となっているのは、「協同労働という縁側の拡大」である。

これまで生き延びる術として守り抜いてきたプライドやアイデンティティを再編し、他者や外界を受け入れつながる存在へと自己変革していく勇気は、偏狭な独善に流されないしなやかさの源泉となる。組織・事業・運動のあらゆる面に、「壊れる前に壊し再編する」動的平衡の勇気が試される。その中から、新たな芽生えと出会いは必ず訪れるはずである。社会もまた、同様の場面に遭遇しているからこそ、「諸行無常」を旨とした自己変革の営みが、説得力を持ち信頼を集める運動を育てる試金石となる。

創立総会で採択した「ワーカーズコープビジョン2023」は、その先駆けとしての実践を喚起する宣言でもある。

ワーカーズコープ未来ビジョン 2023
　豊かで多様な自然環境の中で生き合う
　～人間の未来を編み直す～

　私たちは、多様な生命活動のかかわり合いと循環で成り立つ地球の一員です。しかし人類は、自然を支配し、気候環境や生物多様性をないがしろにし、持続不可能なものにしています。自ら生み出した「生存の危機」。それは、人間社会の分断や対立にもつながっています。人間も自然の一部であることを自覚し、未来への希望を描き、社会を編み直すこと。「働く」ことは人間のあらゆる営みの土台です。その舞台は職場･くらし､「地域」へと広がっています。豊かでしなやかに「働く」営みが「経済」活動となり、「社会」と呼ばれる関係性を編み直していきます。そこでは誰もが当事者であり主体者です。「持続可能で活力ある地域社会の実現」をかかげる労働者協同組合法は、こうした未来への道のりを照らす一つの契機となるでしょう。あらゆる生命との折り合いに「働く」ことを結び、「協同の体験」や「共生の体感」を深め、「生きもの」としての豊かな感性を磨いていくこと。私たちは多様ないのちの「働き」による恵みを、協同と共生の関係を育むことと結び、人間としての「働き」を探求していきます。

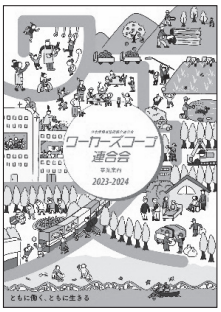
１.「働く」を変える ～自らの手に取り戻し、仕事を研ぎ澄ます～
２.「地域/コミュニティ」が変わる～生き合う関係を無数につなぐ～
３.「経済・社会」が変わる～お金と効率に支配されない価値を創造する～

　このビジョンは、活動の到達点や環境の変化に応じて、繰り返し見直していきます。

2023年６月24日

ワーカーズコープ連合会
JAPAN WORKERS' COOPERATIVE UNION
ワーカーズコープ連合会ロゴマーク

ワーカーズコープ未来ビジョン
2023解説文



ワーカーズコープ連合会事業案内2023-2024
（連合会ホームページ
https://jwcu.coop/2023/08/03/2023年度版事業案内をダウンロードいただけます/）